

< 9 番 山下 憲雄議員 >

議員の皆さま、こんにちは。山下憲雄です。このたび、井原市議会議長選挙に立候補するにあたり、私の想いと決意を述べさせていただきます。

まずは、この場をお借りして、所信表明の機会をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

井原市に恩返しをしたいという思いを胸に、議会活動に取り組んでまいりました。

これまで以上に、市民に信頼される議会、身近に感じられる議会の実現を目指し、その先頭に立つ覚悟で、今回の議長選に臨んでおります。

今回の市議会選挙では、30代から70代までの幅広い世代が議会に集いました。女性議員も3名となり、バランスのある構成となったことは喜ばしいことです。

しかしながら、投票率は過去最低の55.56%という現実を突きつけられました。

政治への関心が薄れているのではなく、「議会は何をしているかわからない」「どうせ変わらない」といった諦めの声が広がっているのではないのでしょうか。

この現状を変えるために、私は市民との距離を縮める議会改革に取り組む決意です。

井原市議会基本条例の理念を踏まえ、私は以下の3つの柱を中心に、開かれた議会の実現を目指します。

はじめに、議会運営改革の推進であります。

基本条例第3条に示された「開かれた議会」「市民参加の拡充」「政策形成力の強化」などの原則を、今こそ実行に移すべきときです。

議員間討議の仕組みを整え、行政任せではない議会主導の政策議論を充実させてまいります。

また、議会報告会や議員活動報告、市民相談会をさらに推進し、たとえばこの庁舎の5階会議室や駐車場スペースを活用した「青空議会」の開催も検討してまいります。

2つ目に、市民との信頼関係の再構築であります。

基本条例第7条では、議会および委員会の公開と、その傍聴の推進が明記されています。私たち一人ひとりが2人ずつでも傍聴を呼びかければ、本会議場の傍聴席はすぐに満席となります。

また、小学校、中学校、高校生への議場見学も積極的に進め、次世代に伝わる議会づくりを行います。

3つ目、チーム市議会の構築であります。

議員の熱意を政策として形にしていくためには、議会事務局との連携が欠かせません。

定期的に議員と事務局が意見を交換し、チーム市議会として課題と知恵を共有しながら前進していく体制をつくります。

結びに、私の好きな論語の一節に「義を見てせざるは勇なきなり」という言葉があります。

正しいことと知りながら行動しないのは、勇気がないということ。

この言葉を胸に、タイミングを逃さず、果敢に取り組む議会でありたいと考えます。

市長との関係にも緊張感をもって臨みつつ、決して対立ではなく、一歩離れて、二歩離れない関係性を保ちながら、市政を前進してまいります。

井原市の未来を担う私たち一人ひとりが、意見を交わし、力を合わせ、進化した議会、信頼される議会を共に築いてまいりましょう。

どうぞ、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上、私の所信とさせていただきます。